2017年10月1日、現在の歴史的ヴィジョン

written by Francesc Xavier Hernàndez | 27 de gener de 2024

今日、カタルーニャ社会とスペイン国家の間には対立状況がある。その原因となっているのは、私たちの言語と文化を追い詰め、カタルーニャ人が自分たちの国の統治を決定することを制限したり、妨げたりする国家プラクシスである。スペインの国家モデルは、国家自体の制度的、人的構造、そしてそれらを明確にする資本の構造を永続させるために、領土の支配と略奪に基づいている：マドリードである。このモデルの構築は、1714年から1715年にかけてのブルボン家の勝利と専制君主制の構造化によって始まった。1714年以降、権力はブルボン家とその側近である軍隊、司法、高官、経済寡頭勢力、投機銀行が握っていた。

今、誰が権力を行使しているのか? そうであろうとなかろうと、いつものことだ。王政は、高官、メディア、政治指導者、富を生み出さない投機家銀行、国が支配するサービス企業、公共事業に奉仕する大手建設会社、付加価値の低い分野に影響する不均等なビジネスなどを連結するシステムの要である。これらすべての構成要素は、通常、サンティアゴ・ベルナベウの箱庭で一致している。サンティアゴ・ベルナベウは、立法、行政、司法の各権力間の腐敗という堂々たる横断的陰謀を展開し、権力者を保護、育成するスペインを統治する存在である。

しかし、このモデルは300年間うまく機能してきた。しかし、ポスト産業革命と欧州市場の創出が、時代錯誤となりつつある旧来の国民国家から、生産力の発展とEUの統治にとって危険な存在となりつつある旧来の国民国家へと舞台を移したことを考えると、このモデルには亀裂が生じている。

というのも、ブリュッセルに権限を移譲すると同時に、地方に管理を分散させ、国民に近い統治を確立する必要があるからだ。構造的な腐敗によって機能不全に陥っている旧ブルボン朝国家は、新しい力学に適応することができず、機能不全に陥った行政機関の煩雑な構造は、その将来に疑念を投げかけている。無能で、非競争的で、不活発で、非生産的な国家は、借金と財政収奪のおかげで存続しているのであり、未来はほとんどない。しかし、たとえ私たちが見ているように、彼がファシズムの道を再演しているとしても、彼はこのモデルの存続を放棄しない。

カタルーニャはこのモデルに直面している。1714年に敗北し、19世紀と20世紀に粉砕され、1939年に軍事占領され、2017年10月1日以降、カタルーニャの人々が民主主義を行使することを基礎として未来への出口を探していたときに、国家の暴力によって再び服従させられた国。

なぜカタルーニャ人に対する恒常的な暴力なのか?

カタルーニャは、敗北と政治的従属にもかかわらず、アイデンティティという貴重な遺産を維持し、南ヨーロッパの経済的・社会的構築の基礎となった重要な生産ネットワークを生み出した労働文化を発展させてきた。

近年、1978年に達成された弱い自治権に対する組合主義政党の攻撃は、スペイン国家モデルに対する潜在的な脅威として認識され、増大した。そしてカタルーニャ社会の反応は、それが生存の問題であることを理解した上で、政治的権力を主張し、文化遺産の配備を組織化し、国内での富の創出と利用を促進できるようにすることだった。選ばれた選択肢は、明らかに独立であり、新しいヨーロッパのニーズに合致した近代的な国家を建設し、民主的な文化という点で基準となるものであった。

他方、カタルーニャにおける代替案の成長は、スペインのチェスモデルに対する脅威を意味した。そして、モデルの対立は、都市モデルの

□□□2□□

□□

□□□□□□□1978□□

□□□20□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□10□1□□□

□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□

□□□

□□□PP□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□2□□

□□□

link: https://unilateral.cat/2018/09/11/lu-doctubre-de-2017-una-visio-historica-actual/